

# 大学に求めるもの

現在の大学は研究者の育成機関と、高等教育を受けた知的労働者の供給という二つの役割を持っている。ともあれ、この役割が充分に果たされているかという事については、疑問を持って語られる事が多い。

## ● 例えば、

例えば、大学で行われている教育が、就職の後に全く役に立たないという批判がある。確かに大学で教わる高度に専門的な知識が直接活かせる職場は、それほど多くあるまい。むしろ幅広い教養を持ったジェネラリストや、即戦力のある人材が社会からは求められているのだろう。専門性という観点から見れば、大学卒業後に就職する人にとって、今の大學生の専門性は不必要に高いといえる。

また、逆に研究者を目指す学生にとっても現在の大學生には不満が残る。大綱化によってカリキュラムは自由になったと言え、やはり1、2年次の一般教育は避けることができない。4年間というただでさえ短い期間で、十分専門教育は受けられず、教官の側も早めの学生囲い込みに汲々としている。



## ● このように

大学を批判する声は多い。だが、こういった問題の捉え方は本当に適切か。授業が難しい／簡単すぎる、専門がやりたい、選択必修が多すぎる等の個々の不満は確かに多くある。しかし、それらの全てを満たす状態は作りうるのだろうか？

勿論、個人のニーズと現実とのズレは問題発見のきっかけではある。しかし、それはあくまでもきっかけでしかない。仮にそのような個々の不満が直されたとして、それだけで教育が良くなるとは思えない。

## ● もしかして

個々の不満にさえ目をつぶれば現在の教育は意外とうまく機能しているのかもしれないし、また、そういった不満を生む構造的な欠陥があるのかも知れない。それ以前に、専門性の高低で教育を捉える事自体が誤りなのかも知れない。以下ではそのような観点から、現在の大學生を問い直してみた。

## 「中庸の教育」大いに結構！

現在、多くの教育問題が指摘されている。しかし、実際に今の教育はそれほど悪いのだろうか。例として、卒業単位をそろえれば強制した・しないにかかわらず卒業できるという現状を挙げてみる。この制度では楽に単位をとれる授業だけを選んで卒業していく人も出てこよう。こういう人々の存在は学士の価値を下げ、一生懸命勉強して卒業しても、そのことを評価されることがなくなってしまった。この事を批判する人がいたとしよう。

そんな時、踏み止まって考えてみよう。最近の大学生には就職を目的としている者も増えてきている。これらの人にしてみたら卒業はしたいが、アルバイトやサークル、ボランティアをしたほうが良い社会勉強になるだろう。すると、いまの制度は嬉しいものとなる。

つまりいまの制度がまったく学生の要求に応えていない訳ではない。それに勉強を頑張った人はそれなりに得るものがあり、決して無駄にならないはずだ。だから、今の教育のシステムは悪いとは言えない。

以上の事から、批判をしている人が自分を中心とした狭い範囲しか見ていないとも考えられる。このことはより広い教育批判についても言えるのではないか。文部省が今まで進めてきた教育制度も、何らかの形で学生・社会・企業などの要求に応えていると思う。問題があるというのは程度の問題なのだ。それで今まで取られているのが平均・中庸の教育とも言える。努力をすればこのシステムについていけるし、無視して我が道を行く事もできるだろう。この教育制度がそれほど悪くないから、批判は出ても解決案には説得力に欠けるものが多いのだろう。

(文責 長浜 則夫)

## どだい、矛盾している。大学を二つに分けよ！

確かに平均化することによってそれなりに大きな不満は防げるであろう。しかし、やり方次第では平均化するというのは個性をなくすことにつながり、専門的な分野に弱い社会ができる可能性がある。

さて、大学の話に戻そう。先ほども少し触れたが、本来、大学に来る目的は大きく分けて二つある。一つは就職するという目的、もう一つは研究員になるという目的だ。ここで、両者の間に大きなズレがある。前者は大学で専門的な教育を受ける必要性がまったくと言っていいほどなく、後者は専門的な教育を受ける必要が大いにあるのだ。

この大きな歪みを解消しているのが平均化という方針である。先程も述べたが卒業単位さえそろえれば卒業できるのだ。すなわち、就職を目的としている前者としては必要以上に勉強する必要がなくなるし、勉強を目的としている後者としては環境は整っているのだから好きなだけ勉強できるのである。

しかし、ここで両者は互いに不利な状況を与えると考えることはできないだろうか。つまり、前者としては単位をそろえるためとはいえ、専門が必要な学生のために行われている講義の勉強を強いられているわけであるし、社会に出てから役に立たないことに時間を割いていることは変わりない。また、後者としても専門が不必要的学生のために専門性を薄めて行われている講義を受けなくてはならないのだ。すなわち、お互い不満は最低限で済むのだが、両者とも満足

できる教育を受けることはできないのである。

では、お互いに満足できる教育制度とはどの様なものであろうか。つまり専門が必要な学生と必要でない学生を分離すればよいのだから

1. 専門を教える教育機関と就職に必要なことを教える機関に大学を分離する

2. 企業が大学から社員を探ることを止める

等の方法が考えられる。どのような方法にせよ、それぞれの目的に応じ、果たしていけるような機関が用意されている教育システムであればよいのだ。そして、目的がある程度一致した集団での平均化は、現状の様な歪みは生まれず、その役割を發揮するであろう。

(文責 山田 悟史)

## 教養的教育も重要。しかし、本当に「教養的」か？♪

歴史的には、現在の大学は戦前の旧制高校（3年）と大学（3年）が合併してできている。旧制高校は今で言う教養的教育を、大学は専門教育を担当していたが、本来6年間で行われていたものを4年間に押し込んだ訳で、当然無理は出る。結果、どうなったかと言えば、自身が専門家である大学教員は教養科目を軽視し、日本の高等教育から教養的教育の影は薄れていった。特に91年の大綱化で各大学が自由にカリキュラム組めるようになってからは、その傾向が加速しているという。

だが、実際には、大学卒業後に就職する学生の方が多いのであり、そういう学生にとってより重要なのは、やはり教養教育だと言える。また、最近では研究者志望にとっての教養科目の重要性も議論されるようになってきた。一領域の中だけでの研究に限界が出てきた事があるし、新発見の糸口は他領域との交差点にこそ存在すると考えられるようになつた為もある。



それでは単純に、教養科の時間を増やせばそれでいいかと言えば、そうでもなかろう。教育的教育の定義が何であれ、世間一般にいう「教養」が大学の1、2年次の講義を聞くことで身に付くとは到底思えない。そのような事を大学に期待する事自体が日本では滑稽であるが、イギリスのように教養を重視する社会や、韓国のように儒教的な虚学を重んずる社会では、専門的な能力よりもむしろ、そのような教養の高さこそが大学卒が知的エリートであるとされるゆえんであるとも聞く。

それなら、どうすれば良いのか、と聞かれても答えられないが、大学にしてみれば教養的教育の充実は今後重要な生き残り戦略となる。大学進学が大衆化する中で、学生の要求は教養指向になってゆくと考えられる。中途半端な教養と使い勝手の悪い専門の組み合わせでは、学生にもそっぽを向かれてしまう。

(文責 石橋 淳也)

## ディベート & フリートーキング



藤井 啓晶  
有村 大士  
松永 孝治  
高田 知典

長浜 則夫  
頭士井 朋世  
山田 悟史  
元吉 強司



## 「大学は勉強をする所ですか？」

YESか NOか — 爪破りの二元論 —

### <勉強とは…>

・議論のため、「勉強」にこの場限りの定義を与えました。

勉強 = 授業 +  $\alpha$   
(但し、 $\alpha$ とは授業に関連して自主的に行う学習。)

### <何故にこの議題か>

「大学は勉強するところですか？」人を馬鹿にしたような議題である。当然ではないか。今更、議論することもあるまい。

では、大学では勉強だけしてればいいのか？これも愚問だろう。社会勉強だって大切なのだ。そりや、そうだ。そうだが、あまりにも当然で、ろくに考えたことのない命題といういふのは結構あるものだ。

暇人編集委員が暇人（失敬。これは嘘だ）を集めて議論してみた。  
とりあえず聞いてみて欲しい。

## 開催日及び会場

▼1997年12月22日(月)  
18:30より  
▼K 102教室において開催

### 式次第

(18:30~21:00)

概要説明	5分
NOチーム立論 (作戦タイム)	3分 3分
YESチーム質問	5分
NOチーム回答	5分
YESチーム立論 (作戦タイム)	3分 3分
NOチーム質問	5分
YESチーム回答 (休憩)	5分 10分
YESチーム結論	5分
NOチーム結論	5分
審議	5分

### —結果発表—

フリートーキング  
→残りの時間を使って

注：記事化の便宜上、今回のディベートでは一部正規のルールにのつらない部分があります。ご了承下さい。

### さて、

「そんなのYES/NOが勝つに決まつてたるだろ」と自信満々で始めた両チーム、立論では大いに苦戦した。事前に作戦計画を書いて提出するように求めたところ、殊にYESチームは根拠付けに散々苦心して、夜中3時までかけて議論する始末、苦心作の立論と、ディベート・フリートーキングの内容は次ページから。



### YESチーム

- ・元吉弘司(社会科学コース08/チームリーダー)
- ・頭土井朋世(社会科学コース08)
- ・長浜則夫(自然環境研究コース08)
- ・山田悟史(物質生命科学コース08)

### NOチーム

- ・高田知典(地域文化コース08/チームリーダー)
- ・有村大士(物質生命科学コース08)
- ・藤井啓晶(人間文化コース08/当日都合により欠席)
- ・松永孝治(自然環境研究コース08)

### その他…

- 審判8名
- 進行・書紀

## 各チーム立論

### <NOチーム>

- ・小・中・高校と大学の違いは、単位をそろえるという大枠だけで学生に大きく自由を許容しているという事である。
- ・それは、学生の自由な活動が期待されているという事である。
- ・従って、講義にしばられて、その自由な時間を束縛されるべきではない。
- ・つまり、重要なのは個人の「自主性」なのである。

V  
S.



### <YESチーム>

- ・大学は勉強をする環境が他のどこよりも整っている。
- ・図書館、LL機器、パソコン、教官、留学生…etc
- ・せっかく大学に在籍しているのだから、このメリットを活用しない手はない。
- ・また、自分の考えを論理的にまとめる方法、特に卒論のプロセスなどは、将来企業に入ってからも十分役立つものであろう。

## 主な論点

### <論点1>

- ・大学時代の自由な時間はどのように使われるべきか

### YESの立場

- ・大学生に与えられている自由な時間は、勉強するために入れられている。
- ・また、これ程までに勉強に費やせる時間があり、環境が整っているのは大学時代だけである。
- ・勉強のみをしろと言うわけはないが、やはり主眼は勉強である。

紙面の都合から質疑応答の全てを掲載するわけにはいかない。時間の足らなかつたフリートレーニングはフリートーキングの場面で噴出したようなので、詳細はそちらにゆずるとして、主な論点とそれに対する各チームの立場をまとめてみた。

### NOの立場

- ・時間があるというその事自体よりも、その時間をいかに使いこなせるかという事が重要である。
- ・同じ勉強をするのに必要な時間も個人によって異なっており、そのさじ加減を含めて、自主性を育てることが学生生活の主眼であるはず。

## &lt;論点2&gt;

- ・自由である、という事は大学は学生の事を  
保証をしてくれないという事もあるが…

**YESの立場**

大学がこれだけ自由な環境であるという事は、大学は学生の質については保障してくれないという事でもある。つまり、ただ大学に在籍しているだけでは何も得られないし、社会に出てからも認められないだろう。大学を出たと胸を張って言えるようになるには、漫然と講義を受けるだけではなく、自主的かつ積極的に勉強をしていかなければならぬ。

**NOの立場**

大学がこれだけ自由な環境であるという事は、大学は学生の質については保障してくれないという事でもある。実際に企業では、大学での教育に期待せずに入社後に一から教育し直している。結局大学が保障してくれないのなら、大学の意味づけは自分自身で行うしかない。その時に重要なのは、やはり個人の主体性である。

**結論****★YESチーム**

NOの主張では、「大学の勉強に束縛される」という事を論じていたが、勉強とは強制されてするものではない。大学は他のどこよりも自由に勉強できる条件が整っているのだから、その利点を充分に活かすべきである。

**★NOチーム**

大学は自主性をいかに養うかという、いわば実験場のようなもの。また、大学のみで固まっていては価値観に偏りが出てくる。よって、在学中には勉強以外の活動にも積極的に関わっていくべきである。

**結果判定**

審判8名の挙手による判定 →

**YES 2票**

**NO 6票**

終了後、審判には感想を順に述べてもらったが、それを聞く限り明暗を分けたのは質疑応答の部分だろう。細かく想定問答集を用意してきたYESチームは誘導尋問に失敗し、そのミスをカバーできないまま終わってしまった。議論を終始リードしたNOチームのディベートでの勝利。「両チームの主張は結局同じだった」という感想が多かった。

敗者の弁 「やっぱ、これだけ時間が短いとシンプルな構成の方が勝つわ」

**～フリートーキング～**

ディベートの終了後、審判を交えてフリートーキングを行った。円座を組んで気楽な雰囲気で行ったが、各チームともディベートでの鬱憤からか大いに盛り上がった。その議事録から興味深い場面を2、3ピックアップしてみた。なお、審判は匿名可との約束だったので、チームのメンバーを含め、全員の名前を伏せてある。

**それでもいるのなら**

- D 「よくディスカッションとかでやたらと大学が悪いとか、学部のカリキュラムが悪いとか言う人がいるけど、その時はそう言つても、公的な手段で訴える一例えは学部に掛け合ふとかいう手段を取る人は少ないよね。それじゃあ、愚痴をこぼしているだけでしょ。」
- B 「僕の事、意識してる？」
- C 「いや、Bは実行してるからいいんよ(笑)」
- D 「そういうのは違うと思うんだよね。不満を持ってるなら実際に掛け合えばいい事だし。」
- H 「掛け合って直るんかね？」
- D 「直らんとしても、実行に移さないかんし。それでも嫌だったら、やめればいい。結局そこに属して…」
- H 「やめるのはねえ」
- D 「だらだらしてる訳でしょう？」
- H 「まあ、ねえ」
- F 「それでもおるんだったら、大学がやつてくれんことは自分で補うしかない。」
- B 「そう、その通り。彼(F)いいねえ。大学を出てね、それで社会に出て自信をもつてやって行ける人ってどの位いるのかな。大学の講義と+αだけでそう言える人ってすごいと思うけど、大抵の人は自信がないと感じてると思う。」
- K 「自信がなくても、少なくとも自信がないことに焦るんだったら、それでいいんじゃないかな。」
- B 「そうそう、その焦るっていうのが大事だと思う。」
- D 「あと、社会に役たつ、役たんとかも一つの指標だと思うけど、あと、知的欲求もあるよね。知りたいとか。」
- A 「大学が知的欲求を満たす、というか、自分のやりたい事をやる最後の機会かなって、最近よく思ってきてて。それを十分活用していくのがいいかな、と。」
- C 「それだよ。何か口から出らんかったんよ。精神的贅沢とか言ってたけど、知的欲求の充足だよ。それをいたいかったけど言葉が出てこなくて…」
- H 「ああ、あれか」
- G 「うううう」
- K 「2時3時までかかってやってるから、そういう事になるんよ。」
- J 「もういいさ。」
- B 「いい言葉だよね。知的欲求って



かんぱります

**今からでも遅くない**

- A (NO側に挙手したが)「やっぱり、大学は勉強をするところだと思います。(笑)」
- F 「いや勉強するところ、というより、できる」所。
- J 「そうなんだけど、できるところと言つても、卒業の事なんかが入ると「しなきゃいけない」部分が出てくる。」
- B 「それが、やっぱり邪魔なんだよね。」
- F 「だけえ、入る時点ですると決めたんなら、卒業するまでにそれなりの事はしなくては。遊びたい時に遊べばいいじゃん。それで、ちゃんと自分で自分の尻をぬぐう事ができればいいんよ。俺はそう思う。」
- K 「そこまで考えて大学入る余裕って、大

抵ないじゃん。

F 「いや、俺は浪人したから  
一同 「おおお。(拍手)

E 「なんでそこで拍手が入る?  
C 「そうだそうだ(一時混乱)

F 「4年目をすごしながら思った事は、  
(現役生は)こんなこと考える暇ないんだ  
ろうなって。それは可哀想だなって。

G 「でしょう?

C 「なに被害者になってんの(笑)

B 「でも、それは大切だよ。そういう意味  
では(授業休んでも)いいと思うよ。自  
分に何が必要かを考えて受けしていくんだ  
から。情報っていうのは必要なものを拾って、  
処理して、それを発信していくのが大切  
よ。

### 引き出しの多い

B 「思わない? 家にいて「ああ、家でこれ  
をやってみたい」って。やっぱり家にいて  
も自分の為になると思うことをやると思う  
し、それを授業で阻害されるぐらいなら…  
C 「それなら、大学をやめた方がいいとい  
う話になるでしょ。大学の授業に価値を感  
じてないなら。

B 「いや、だって、それだけ勉強したい事  
があるんだと。  
C 「それができる大学とは思ってるんでしょ  
B 「将来的にはね。でも、それをやるには  
それに付加する、こう、余計なことが  
C 「君は3,4年から入学すればいいんよ。  
1,2年のとこすっ飛ばして。

B 「そうさせてくれよ  
E 「でも、なんだかんだ言って大学って引  
き出しが多いやん。

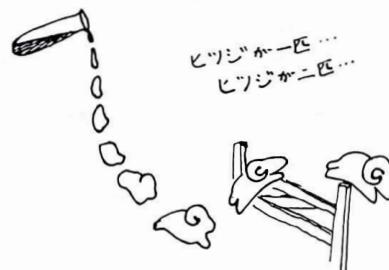
A 「はい。引き出しの意味が分かりません  
(笑)

H 「口にもの詰めて話さないように  
E 「だから、色んなものが詰められるやん。  
というか、色々なものを引き出せるやん。

例えば、こんな所でディベートやるとかね。  
それを考えると、大学が3,4年だけとい  
うのももったいないかなと

H 「じゃあ、単位揃えないで5,6年おれ  
ばいい。(笑)

- A 「でも、それ本気で考えたことがある  
B 「僕はそれを地でいってる。  
C 「立派な奴がいたもんだ(笑)



### 睡眠学習

H 「まあ、なんだかんだいってやらないと  
いけない事ってあるよね。  
E 「そんな言葉でまとめていいのか?(笑)  
H 「いや、だから、確かに現状がそういう  
ふうに悪い事にまけて授業をサボってた  
りするわけで。それに関して最近疑問を抱  
いとったりして。

そんなに授業がつまらなかつたら自分で  
何とか工夫して、本当に自主的なことをやつ  
ていかないといかんと思うんやん。

B 「僕はかえって下手な授業聞くよりも、  
一人で家で本読んどった方が早いんよね。

H 「Eの場合は寝るのが好きだしね

C 「というか、寝ながらも単位とれる授業  
にも問題があるんだよね。ずっと寝てて、  
最後の試験受けなければ単位とれるという。  
それが悪循環を生んでるような気がする

J 「でも、寝ても単位とれるのが悪いから  
って、ちゃんと授業聞いてなきや単位取  
れないようにしてしまったら、すごくつま  
らない授業なのにすごい苦労しないといけ  
ない、っていうのがもっとでてくるじゃん。

C 「だから、寝ても取れる単位だから、  
何の反発も起きない訳よ。寝ても単位取  
れるならそれはそれでいいや、っていう。  
現状を変えてゆこうって力はそこからは出  
てこんはずよ。

### 適性

B 「それは思うよ。だって、予備校なんか  
では、はかりに掛けられて先生がやめさせ  
られていくわけじゃん。それだけの授業を  
していないと。

H 「でも、大学は基本的には研究員だから、  
教える方は専門じゃない訳やん。

C 「でも、教育はせないかんと思うよ。

H 「そう。それは判つるんやけど、だか  
ら、そこで研究をしとる人を授業に直接ま  
わすというのは、基本的に問題があると思  
うんやん。だから、授業は授業で専門の教  
員を作ってしまえばそれなりに質の高い授  
業ができるくると思うんだけどね。

一同 「ええ?」「ああ。」

K 「でも、授業中に自分のやっている事を話  
してくれる先生ってすごく良くない?」

H 「まあ、わかるけどさ。だけどさ、もの  
すごく面白くない授業が多い事も事実だよね。

E 「はははは

I 「でも、今の教員の質がそれほど高いと  
は思えんけど。普通の高校や中学の。」

A 「授業の質を問う前に、先生の授業が悪  
いから、優が出るのが甘いからこの授業は  
抜けていいや、って思う時点で大学にきた  
意味はあまりないかな、って思うよね。

別に優が取り易い授業だって、それに興  
味があれば優いかんじゃなくて重要だよ。  
その授業に興味がないと思ったら、その授  
業ははじめに受けてもいいし受けなくても  
いいし。

この授業は確かにいいんだけど出る氣に  
ならんと思ったら、その時間を別に旅行に  
利用してもいいと思うんだけど、うん、そ  
こでそれは授業のレベルが低いから、って  
言う前に自分たちのことをもう一度見直し  
た方が早いんじゃないかなと思う。

D 「大学の授業がつまらんとか何とか言つ  
てても、何が面白くて何が面白くないかの  
判断の標準をどこに置くか、って問題もあ

るよね。

H 「基本的には知識の内容の事だと思うんだ  
けど、先生の好き嫌いも結構あると思うし。

C 「でも、知識ならぬ、本を読めばいいん  
よ。だから先生はね、ある程度パフォーマ  
ンスをせないけんと思うよ。で、刺激を  
与えて、その場で生徒に考える契機にして  
もらわな

H 「教科書の丸写しの先生もいるしね。」

E 「大昔小学校で、一を聞いて十を知る  
いう人はすごいと言われたけど

B 「そういう人っていないと思うんだよね。  
一を聞いて十を知るのには何が必要かって  
言うと、それを既に経験している事が必要  
だと思うよね。特に文系の授業とか考  
える事が多いから、いったん社会に出て色  
んなものみて、それから又大学に入ってきた  
りした方がいいと思う。例えば、福祉とか  
でも、福祉の学校でぱりぱり勉強するより  
は、いったん社会の中でそういう職場につ  
いて、それからまた大学に戻って勉強した  
方が、授業を受けたとき的に確なレスポン  
スが頭の中でできて、ほんと一を聞いて十  
を考える事ができるんじゃないかなと。」

H 「でも、今社会人も大学行けるから、そ  
ういう事なら社会人になって大学院に行け  
ばいいじゃん

B 「だけえ、そういう流れが、だけえ、僕  
が今言った事を社会が求めてるからそういつ  
た流れになるんじゃないかな。」

E 「社会的にそういうのを認められる土台  
ができる、そういう方に流れが向かってるつ  
てことなんかな

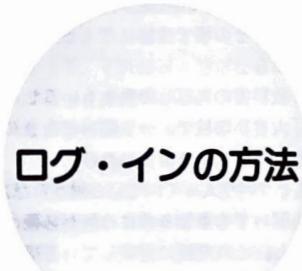
### 番外編

F 「質の低い授業には腹が立つし、おか  
いとも思わない人がいたら那人こそが悲  
しいと思うね。例えば、質の低い優ばっか  
り揃えとて「やったあ、嬉しい。優ばっか  
りだ。」

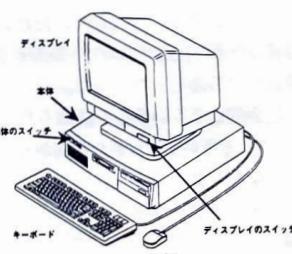
E 「なんだかんだ言って、単位だけ揃えれば  
卒業できるよね。でも、その単位の区分  
がいい加減で、何の勉強をしても単位と  
しては同じ。単位を見ても何の勉強をしたか  
までは判らない。」

# 総合科学部ホームページ紹介

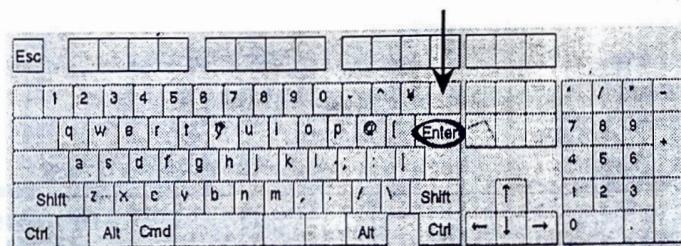
ここからのページはコンピューターの起動の仕方からホームページの見方まで、詳しく紹介しています。最後まで見てね。



- ディスプレイのスイッチをつける。  
スイッチをつけるとディスプレイに下の画面が現れる。



- 「名前」の欄に「U十学籍番号」を打ち込み、エンターキーを押す。
- 「パスワード」の欄に入学後にももらったパスワードを入力しエンターキーを押す。
- ログイン完了。



# 総合科学部ホームページへの入り方

ここでは、総合科学部のホームページへの入り方について説明します。

- まずログインします。ログインの仕方は分かりますね。
- 次に、OmniWebを立ち上げます。地球の形をした絵のついている□と書いてある四角をダブルクリックします。



←これをダブルクリックして下さいね

- 情報教育研究センターならば、次にライブラリーというところをクリックしてみましょう。そうすると学内のホームページというのが出てくるのでその広島大学のところをクリックします。すると広島大学のホームページへ入れます。  
情報処理センターならば最初のページの下の方に広島大学のホームページへというところがあるのでそこをクリックし広島大学のホームページへ入れます。



このページからやっと総合科学部のページにいきます。

- 広島大学のホームページへ入ったら、大学内の組織というところをクリックします。そこに総合科学部というところがあるのでクリックしてみましょう。これで総合科学部のホームページへ入ることができます。そこでみたい情報をいろいろ調べて下さいね。
- ちょっとした裏技(?)もあります。最初にOmniWebを立ち上げたら上の方に白いバーがあります。そこにhttp://www.ipc.hiroshima-u.ac.jp/~soukaと打ち込んでみましょう。1回で総合科学部のページへ入れるはずです。

1から4までの手順を書いたのは総合科学部のページへ入る間でのいろいろなページを知ってほしかったからです。総合科学部はいろいろなところにつながっているんですね。ここに書いた手順もほんの1例にすぎません。他にも様々な入り方やページの可能性がインターネットには考えられます。これを機会にあなたもインターネットを楽しんでみてはいかがでしょうか。

## 総合科学部ホームページの紹介

学部長メッセージから始まり、総合科学部の理念やプロジェクトを紹介。

月間の日程など  
主に教職員への情報

文部省のホームページにつながっている。文部省の行政改革の方向を見るため。ただしアクセスに時間がかかる。

**学部紹介**

**教職員への  
インフォメーション**

**文部省**

**受験生向け  
情報サービス**

**交通案内・地図**

**広島大学**

**在学生向け  
情報サービス**

**Q & A**

**同窓会**

**大学院関係**

**お知らせ**

**メディア**

**就職情報**

**新着情報**

**タウン情報**

公務員ガイダンスや、就職ガイダンスの日程がわかる。今後さらに、充実させていく予定。

広島県・広島市・東広島市のホームページから広島情報・東広島タウン情報が得られる。

学生便覧・前期後期の時間割や、学生生活の手引きにある内容が載っている。シラバスも入っているので時間割を組むとき利用するのも良いかも知れない。

朝、新聞を読めなかったらここをクリックするとよいだろう。日本語版5社、英語版2社の新聞社の中から選べる。また、フジテレビなど放送会社をクリックすると、ドラマ関連の情報があり、面白い。

★青文字をクリックすると画面が変わります。



## 総合科学部コース紹介

### 学部紹介

● **人間文化コース** ————— 内容紹介 スタッフ紹介 ホームページ

● **地域文化コース** ————— 内容紹介 スタッフ紹介 ホームページ

● **社会科学コース** ————— 内容紹介 スタッフ紹介 ホームページ

● **外国语コース** ————— 内容紹介 スタッフ紹介 ホームページ

● **数理情報科学コース** ————— 内容紹介 スタッフ紹介 ホームページ

● **物質生命科学コース** ————— 内容紹介 スタッフ紹介 ホームページ

● **自然環境研究コース** ————— 内容紹介 スタッフ紹介 ホームページ

● **生体行動科学コース** ————— 内容紹介 スタッフ紹介 ホームページ

● **学生相談室** ————— スタッフ紹介

・ 加藤先生のホームページから他大学の教授のページを見ることができる。でくてく地図やアパート情報などもある。(人間文化コース)

・ 地球派フォーラムの会員案内・地球派塾の情報があり、環境に興味のある人は必見。(自然環境研究コース)



### タウン情報

### 教職員への インフォメーション

広島市にある文化サークル、スポーツサークル、スポーツ施設の案内がある。国際交流やスポーツクラブに興味のある人にはおすすめ。

この中の「掲示板」のコーナーは皆さんの意見・感想・その他情報交換の場として活用するためのもの。早速Eメールで送ってみよう。

総合科学部のホームページには、学生便覧やシラバス、卒論、就職情報などが載せられており、受験生に配布される大学案内とは比べものにならないほどの情報を含んでいる。しかしもう一步踏み込みたい箇所がある。それは研究内容を含む、教授陣の紹介である。ホームページは、情報収集と同時に情報提供の役割も担っている。広島大学総合科学部がどんな教育を行っているのかをホームページ上に示す

ことによって大学あるいは学部の評価が決まってくる時代だと思う。

各コースのホームページ、教授のホームページの英語版を作るなどの充実を図れば本当に世界に開かれた総合科学部だとアピールできるのではないだろうか。しかし実際は専門職員も予算もなく、作成は容易ではない。学生側から積極的にホームページ作成に参加したらいいと思う。Eメールで、あるいは直接庶務係に問い合わせてみてはどうだろう。まあとにかく一度総合科学ホームページをご覧あれ。

特集後記

<教育特集PART 1>

「自由」というのは無限の可能性と、どうしようもない不安感を同時に与える。この「Z」を作る際、こんな記事を作ってしまうことへの不安を感じながらも紙面のある種の可能性にチャレンジしてきたつもりである……。

願わくば乙が自由な場の中で潰れてしまわずに頑張れますように・・・。

＜教育特集PART 2, 3＞

現実に不満がある時、不満な点を大声で呼ばわるのが PART 2、嘆息しつつも対処法を考えるのが PART 3。このような分け方は強引だろうか?

不満は不満で置いておいて、抜け道を探すのは現実的だが逃げ腰である。現実は少しも変化しない。また、えらく元気がないようでもある。

だからといって、斜に構えて批判をするだけでは自分の足場を見失う。自分自身も問題の中にいるわけである。急に変わらぬものならば、せめてそこからでも得られるものは拾っておくべきではないか。受験戦争を批判しつつも大抵の母親は、我が子を戦場に送り出すのだ。

問題の所在をはっきりさせた後に、それに 対する自分なりの対処を考える。このペアが 多分、大切なだろう。現状打破だけが対処 ではないし、個人に立ち戻るのが必ずしも逃 げではない。

ここまで書いて、しかし、ふと思う。それもやはり逃げ腰なのだろうか？

＜ホームページ＞

ホームページを作成している庶務係を取材したときのこと。

「これから的情報社会で生き残るために、外國語と情報が必要。

総合科学部は、その二つに力を入れ、センターを二つも建てた。

その意気込みの現れとして、内容の濃いホームページを作っています。」

そうおっしゃったのが強く印象に残っています。

# PART 2

ペシウナホセハアハル、



<PART 2> 目次

・研究室紹介	
金田晉研究室（人間文化コース）	23
崔吉城研究室（地域文化コース）	24
伊藤護也研究室（社会科学コース）	25
小林ひろ江研究室（外国語コース）	26
西井龍映研究室（数理情報科学コース）	27
小南思郎・	28
山崎岳研究室（物質生命科学コース）	
設楽惣助研究室（自然環境研究コース）	29
関矢寛史（生体行動科学コース）	30
・よりよい授業を目指して	
品川 哲彦（人間文化コース 助教授）	31
・総科OBからの声	
山尾 政博（鹿児島大学水産学部 助教授）	32
・エッセイ	
インターネットと英語の洪水	33
加藤 徹（人間文化コース 助教授）	
広島化人間…	34
奥山 敬子（社会科学研究科 博士前期課程1年）	
私の庭－愛する倉橋島－	35
村本 直己（理学研究科 博士後期課程1年）	
Eco page 部員募集中（仮）	36
山口 孝一（自然環境研究コース 2年）	
・新任教官紹介	
・人事異動	37
・K棟大図解	38
・読者からの声	39
・編集後記	42
・飛翔伝言板	43
・裏グラビア	45
・裏表紙	

かなた  
金田 晉研究室

人間文化コース教授  
A718 比較文化研究群

Q 1 研究内容を教えて下さい

芸術作品、特に絵画や彫刻をはじめとする造形美術を対象に、読解と解釈の可能性について考えてきたが、最近では単体としての芸術作品にとどまらず、私たち鑑賞者をも一項として取り込む環境美学へと関心の幅を広げている。都市景観、街路環境の整備の問題などを建築、都市工学、環境科学、文化学、デザイン制作の研究者と共同作業を始めている。一方で、今世紀最大の哲学運動たる現象学の方法論をもとに想像力や美的価値等の美学的問題を、哲学的にまた比較文化論的に研究している。



Q 2 研究室の雰囲気（様子）を教えて下さい

学部学生と大学院生との交流も盛んで、毎年国際的に活躍する第一線の研究者を招聘して講演会やコロキウムを開催したり、学生たちで読書会をするなど、きわめて活発な研究室である。美学等の本格的な理論研究をすすめる学生も多いが、一面喫茶店文化や都市のポケットパークや路面電車の研究など、足で学ぶ、比較文化ならではのフィールドワークをする学生もいる。

Q 3 学生に一言お願いします

美意識とは、物をただ美しいと思う意識ではなく、人間の生死と隣り合わせの生存のモラル意識だと思っている。21世紀には物質的欲望の充足ではなく、精神の充実が求められる。その時代を生き抜く美意識を鍛えてほしい。知的好奇心を持ち続けてほしい。

先生はどんな人ですか？

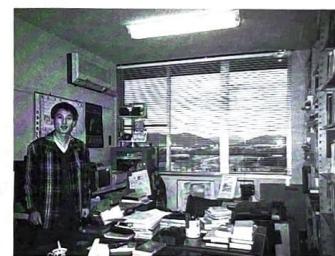
(研究生に聞きました。)

パロメーターは唇？教授？軍曹殿？いずれにしてもついてゆきます！  
もれなく自然の恵みがついてくる。今年は山菜パーティin別荘！でした。  
いろいろ“運動すること”が大好きな方です。いつもなんだか忙しそう…  
メロドラマを見ると泣いてしまう（事もある）、涙もろく情の厚い方です。  
怒ると怖い！君にその勇気はあるか？スピード狂の詩がきこえてきます。  
ネクタイの位置にご注意。酔いのパロメーターです。

(取材：田原 和貴)

崔 吉城 研究室

地域文化コース教授  
A614 人類学



▲見晴らしのよい研究室

休みの日は研究のため海外に出かけることが多い。今まで行った国・地域はモンゴル、チベット、中国、沖縄など。中でも中国には15回ほど行ったという。

朝は4時30分ごろ起きる。本を読んだり、自宅の温室の花をみたりして過ごす。土曜日には庭をいじったり、音楽を聴いたり、趣味の生け花に興じることもある。この生け花の腕前は、近所の人が生けてほしいと花を持ってくるほどの評判だ。

ポメラニアン犬のお嬢さんが一匹。3匹目の犬なので「3番目の美しいお嬢さん」という意味でミミと名付けた。西条の自宅から自転車で大学へ。「韓国で1・2の人類学者《金さん談》」で、豊富な話題と人を引きつける人柄で、誰もが好きになるような先生の毎日は、こんな風に過ぎる。



崔先生のすべてがわかる！

飛翔初 崔先生ミニ伝記

▶ 留  
い  
根  
学  
つ  
五  
生  
し  
さ  
の  
よ  
ん  
と

1940年、韓国の京畿道で生まれた。お母さんが教育ママで小学生のときからソウルで一人暮らしをした。今でも珍しい小学生の一人暮らしだが、これもいい大学にはいるため、韓国の受験事情は厳しいのだ。

勉強はよくした。優秀な生徒だった。走のも速く、学校の代表選手もつとめた。ソウルのような都会育ちの子供とは足腰の強さが違ったのだ。

やがてソウル大学の国文科にはいる。社会運動と勉強に明け暮れる毎日だった。ここ1年生のとき結核にかかってしまう。治療に5年かかった。このとき、のちの人生をも変えるほどたくさんの本を読んだ。クリスチャンになったのもこのときだ。

そしてこの後、教会で一人の女性と出会う。韓国へ医療奉仕にきていた日本人看護婦の女性で、のちに崔青年とその女性は結婚する。これが結婚以来一度もけんかなしという奥さんとの出会いである。



▲韓国式おまるといっしょに

(取材：宮原 千晶)

いとう もりや  
**伊藤 譲也研究室**

社会科学コース 教授  
(A820)



**Q. 研究内容は?**

<法社会学>日本では法学の一部門であるが、社会学など他の社会諸科学との隣接を意識的に追求する。法解釈ではなく、法はどのように機能し、生きているのかという、いわば法の現実を明らかにする。

**Q. 法社会学を専攻されたのはなぜですか?**

学生当時(60年代半ば～後半)、法社会学は比較的新しい学問で、机の上だけの法律に新しい風を吹き込む分野であった。研究室に閉じこもらず、現実社会に出かけていく学問に非常に魅力を感じた。



◆ゼミ生から先生の人柄・研究室の雰囲気など◆

先生はまるでパパのよう、アットホームなゼミです。  
雰囲気も暖かければ、室温も暖かい!

時々スルドイ一言が出ますが、勉強だけにこだわらず、自由にいろんなことをさせてくれます。

(取材:西山 恵美子)

**小林ひろ江研究室**

外国语コース教授  
A417教室



**研究内容を教えて下さい**

外国人とコミュニケーションするためには外国语運用能力だけではなく、相手の社会：言語ルールを知ることも大切です。私は、英語によるスピーチング・ライティング力を高めるための授業法をはじめ、言語使用における丁寧さ、会話スタイル、会話構造など、主に日米語比較を通して、「言語」と「文化」のかかわりについて研究しています。

■総合科学部の学生に一言お願いします。

キャンパスの国際化に参加してほしい。広大には多くの留学生がいますが、留学生と日本人学生の交流はまだ少ないと聞いている。外国语學習を教室の中で終わらせることなく、生の人間とのコミュニケーションに役立ててほしい。ひとこと声をかけることで人間の輪がキャンパスに広がることを期待したい。

■研究室の雰囲気を教えて下さい。

少人数のわりに、にぎやかに楽しく社会言語学について語りあえる研究室です。  
日本語と英語が飛びかうinternationalな研究室です。

■先生はどのような人ですか? (研究室の学生より)

学生に間違われるほど若々しい先生です。先生は、いつも学生にも、御自分の研究にもとても熱心です。

(取材:小林 直樹)

## にし い たつはる 西井 龍映研究室

数理情報科学コース 教授  
(C720) 工学研究科 情報工学専攻



▲いちばん前が西井先生

### ★研究内容：データを統計的に解析する。

また、その統計的手法の応用、開発。

現在、応用として、ランドサット 5 号のデータを解析している。

### ★統計とは…得られたデータには元々揺らぎがある。

コントロールしきれない要素があった上でデータは得られる。その誤差を取り除いて、もとの情報を取り出すのが目的。



### ★この研究を始めたいきさつ

高校の頃、数学が好きで、大学で数学を専攻。

その後、応用のある学問をやりたいと考え、大学院から、統計学を研究。



### ◆先生にお聞きしました

Q：統計学のおもしろさはなんですか？

A：自分が作った理論がうまくいったか、うまくいかなかつたのか、の検証ができるのが、僕は統計学のいいところだと思います。

Q：学生に向けて一言お願いします。

A：言葉をしゃべれ。自分の思っていることを文章に表現できない人が多いんじゃない。  
そんなことはないですか？コミュニケーションの能力に欠けてるんじゃないですか。最近特にそのようなことを思います。



### ◆研究生にお聞きしました

Q：研究室の雰囲気はどんな感じですか？

A：(笑)

Q：西井先生ってどんな先生ですか？

A：研究室に入る前と入って後では、印象が違うんじゃないかなと・・・。

(取材： 安永洋介)

## 小南 思郎（教授） 山崎 岳（助手） 研究室

物質生命科学コース  
(B314)

### -----研究内容-----

- ・生体の恒常性維持に役立つステロイドホルモンの合成の制御機構について
- ・記憶機構に関与する脳の一酸化窒素成酵素の反応機構について



▲前列中央が小南先生  
後列左が山崎先生

### Q：研究室の雰囲気は？

#### ★教官側

うちは、学生を共同研究者とみているので学生本位で研究をしている。こっちはこうしたらどうかというアドバイスをするだけ。

#### ★学生側

変な雰囲気。先生が身近（近すぎるぐらい）で気さくでよい。

### 先生から一言

#### 〈小南先生〉

研究とは、人から言われてするものではなく、好きなことをやるものだ。けれども、人の役に立つことをしなければならない。急に役に立つことをやろうとするのではなく、基礎研究が大事。

学生の間は目先のことや専門領域にとらわれず、幅広い知識と基礎学力を身につかること。その中で自分の興味があることを見つけていけばよい。

### 先生から一言

#### 〈山崎先生〉

どんな対象を研究してもその研究の質が高ければ必ずきっと役に立つ。

学生時代は何かに一生懸命になって挫折し、自分の限界を知る。そういういろいろやっているうちに、長所（人より高い能力）のあるところをみつけねばよい。

しだら そうすけ  
**設楽 惣助研究室**

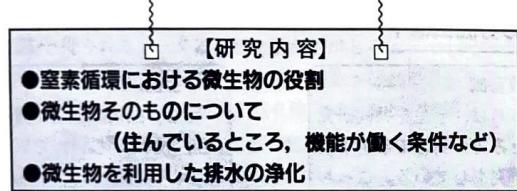
自然環境研究コース 助教授

C402

M2: 2人 4年生: 2人



▲右から2人目が設楽先生



★この分野に進むきっかけ

窒素化合物に注目して  
微生物の生理学を研究。

▼  
自然界の窒素循環と  
水の浄化の研究へ。

★学生へ

基本の勉強はしっかりと。あとはやれること、やりたいことをたくさんやりましょう。

★総科の特徴は?

違った立場の人とのコンタクトができる。

◆学生から◆

Q. 研究室の雰囲気は?

実際の研究は隣の部屋でやるので研究室ではなくつろいです。  
お客様がよく来ます。

Q. 先生はどんな方?

音楽好き。曲を流していてもO.K。  
食べ物をよく買っててくれる。

私もポッキーをいただきました。みなさん  
親切に応対して下さいました。—取材者

学生の研究内容

- 池を浄化する微生物の働き。
- 川の窒素濃度の変化について。
- 浄化槽の性能の向上。
- 釧路湿原での窒素の循環。

(取材:長浜 則夫)

せき や ひろし  
**関矢 寛史研究室**

生体行動科学コース講師

A112教室

▼専門についてお聞かせ下さい。

運動学習についての研究。つまり、人間がスポーツや音楽などのスキル(技能)をどのようにしたら最も効率良く習得し、記憶し、新しい場面に適応させることができるかについての研究です。また、身についたスキルを試合などのプレッシャーのある場面で発揮するためのメンタルトレーニングの研究もやっています。

優しいし教え方も丁寧だと思います。まだ研究室に入ったばかりなのでよく分からないけど、A型っぽい人だと思います。

(吹き出しは学生より)



左から2人目が関矢先生

▼研究していく上で一番の魅力は何でしょうか?

世の中には間違った(効率の悪い)スキル練習の方法があふれています。それらを直すことによって一生懸命がんばっている人たちの上達に貢献できます。また、実践派の運動心理学者として、理論を自分のスポーツの練習に応用できます。

▼先生の趣味についてお聞かせ下さい。

春、夏、秋はテニス、冬はスキー。時々、ブルバールも走る。  
今度、ゴルフも始めたい。本屋での立ち読みも趣味の一つ。

▼新入生へのアドバイス

ダイエット(食事療法)onlyではナイスハイディはつくれません。  
健康の為にもまず体を動かそう。

勉強のわからないところなどを丁寧に教えてくれる優しい先生である。

全然怒らないので怒った顔がみたいような気がする先生である。そしてテニスが好きである。

▼担当されている授業

- ・運動心理学A
- ・運動科学B
- ・スポーツ実習
- ・健康科学実験

一言でいうと関矢先生は、私にとってかけがえのない人ですね。例えば以前私がお金に困ってひもじい思いをしていましたとき、カツラーメンをゆずってくれました。今でも大変感謝しています。

(取材:石橋 淳也)